

公募研究への参加募集

本募集ページの目次

【募集要項】，【本研究の位置付け】，【研究プラットフォーム『脳機能と咀嚼・口腔機能の相互関連の統合的理解』とは】，【個々の研究独自性やプライオリティを尊重した共同研究のあり方】

【募集要項】

テーマ『保有歯数および咬合支持状態と精神機能との関連の縦断的検討』

募集対象：10 研究施設（大学講座など）程度

実施様式：H22 年度 8020 研究事業（（財）8020 推進財団）への応募とする。

<http://www.8020zaidan.or.jp/research/kenkyu-koubo.html>

研究は、東北大学加齢歯科学分野 服部佳功准教授（補綴学会）を代表責任者とした10 研究施設（公募）との共同研究とし、各施設にて実施した調査研究結果のメタ解析を行う。

研究期間：本年度採択決定からH22 年度末まで

参加申込み：

問い合わせ・申込み先：日本補綴歯科学会事務局

申込み方法：本研究テーマに参加希望の旨を明記し、「研究者名，所属施設，職名」を記載の上でメールにてお申し込み下さい。アドレス<hotetsu-gakkai01@max.odn.ne.jp>

申込み締め切り：7 月 20 日

研究計画概略：

I. 目的

保有歯数および咬合支持状態と精神機能との関連を縦断的に検討する。

II. 方法

・デザイン

2 年または4 年の複数コホートデータのメタ解析

・対象

60 歳以上の一般住民，100 人×10 施設

・調査項目

メタ解析に最低限必要な必須変数と，収集が望ましいオプション変数を用意し，参加施設を募る。

必須変数を満たしていることをメタ解析へのエントリー基準とする。各施設の独自性確保の観点から、オプション変数の選択は施設ごとに任意とし、別の変数を追加することも自由とする。

精神機能（アンケート調査）：ベースラインデータと追跡データを収集

必須変数	Mini Mental State Examination (MMSE)
オプション変数	国立精研式認知症スクリーニングテスト (DST)
	Zung 自己記入式うつ病スケール (SDS)

口腔診査：

必須変数	保有歯数（歯番含）、欠損形態、咬合支持域、補綴状態
オプション変数	口腔関連 QOL (OHIP, OIDP, GOHAI 等)

交絡因子：

必須変数	高血圧の有無、降圧剤服用有無、脳血管疾患既往 喫煙・喫煙歴 (never, former, current)
オプション変数	糖尿病既往、高脂血症既往、学歴、配偶者有無、 主観的健康感 (VAS 5段階)、歯科受診有無（過去1年、定期受診） 口腔内写真、研究用模型など

・解析方法

ベースライン調査時の口腔状態と、ベースライン調査から2または4年後の精神機能の変化量または機能低下発現との関連を多変量解析にて検討する。

背景研究

中高齢者の抑うつに関わる歯科的要因:大迫研究 大井ら, 老年歯科医学(2008).

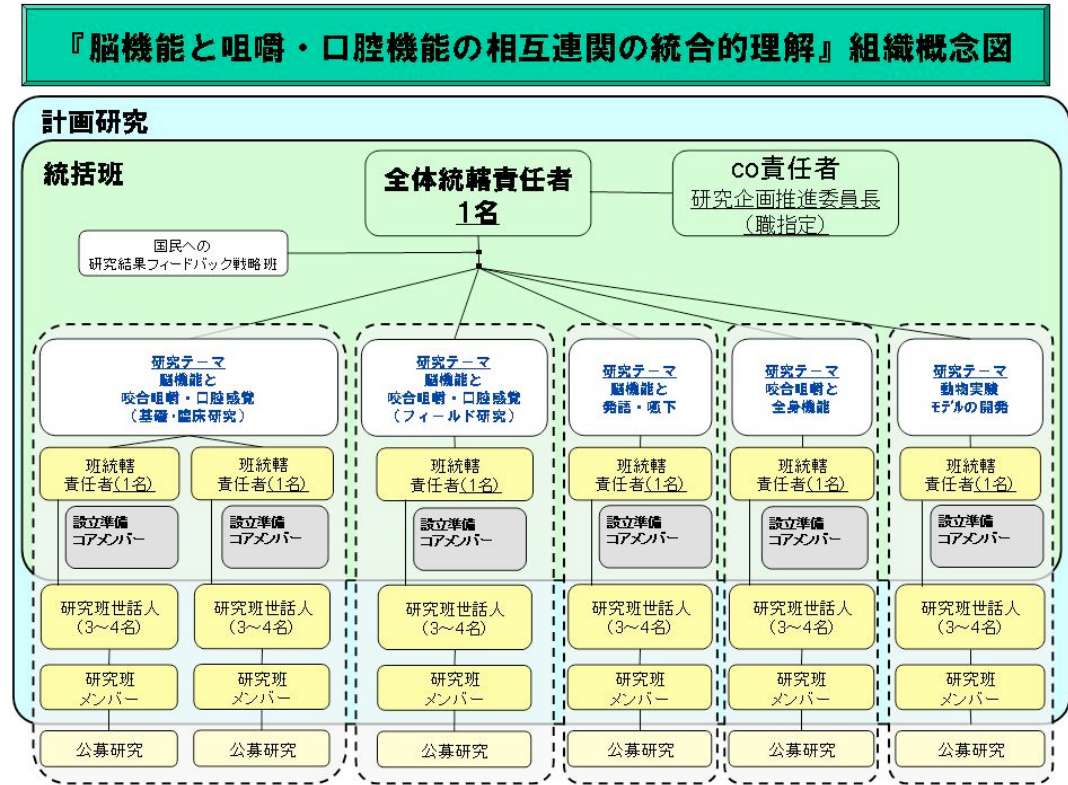
【本研究の位置付け】

本研究は、日本補綴歯科学会 研究プラットフォーム『脳機能と咀嚼・口腔機能の相互関連の統合的理解』を企画・遂行するに際しての、Feasibility Study（実地試行のための研究）の一つとして実施します。

【研究プラットフォーム『脳機能と咀嚼・口腔機能の相互関連の統合的理解』とは】

本研究プラットフォームは、国民の健康に寄与する研究活動を日本の歯科界最大規模の学会として牽引することを目的として本学会内に設立されました。学会に所属する多数の研究施設・研究者が、個々の研究独自性やプライオリティを損なうことなく、国民に寄与できる大規模な研究を企画することができるように、情報交換、グラント応募、研究企画立案などが円滑に行えることに特に配慮した場（プラットフォーム）を提供することを目指します。組織概念図を下記に示します。（H21年度から本ホームページ上で会員皆様

のパブリックコメントを頂きながら検討を進めてきたものです。)

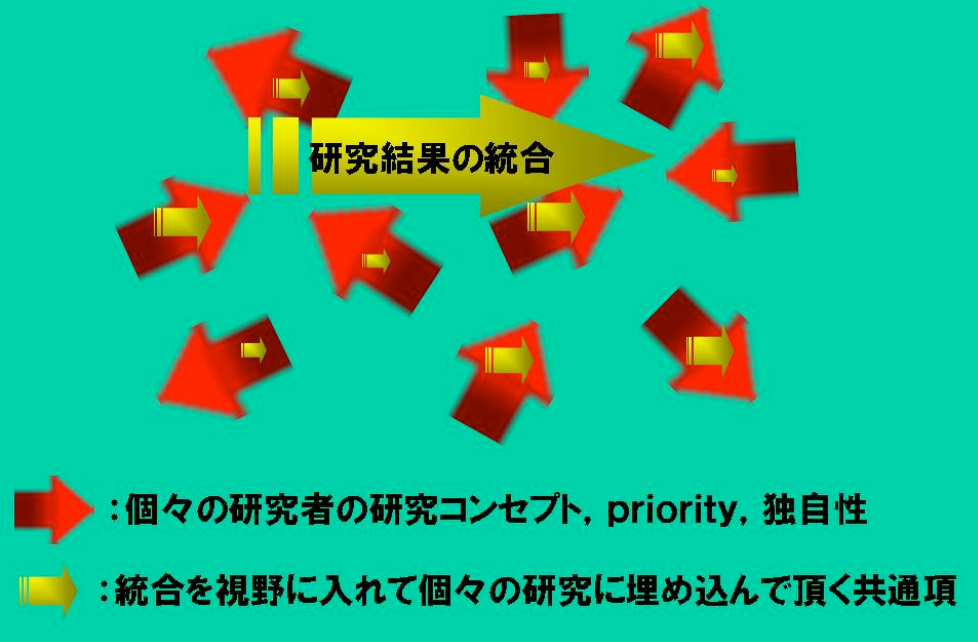


今回、参加者を公募するテーマ『保有歯数および咬合支持状態と精神機能との関連の縦断的検討』は、このプラットフォームの中の研究班「脳機能と咬合咀嚼・口腔感覚（フィールド研究）」の中の一つの研究という位置づけとして実施し、研究を実際に遂行するとともに、共同研究を円滑に進める上での問題点があれば収集することも目的としています。

【個々の研究独自性やプライオリティを尊重した共同研究のあり方】

研究活動を行う上において、個々の研究者の研究コンセプト、独自性、プライオリティはどうしても尊重されなければならない最も価値の高いものです。したがって、学会として共同の結果を導くにはこの重要性和、共通項の重要性和を両立させる必要があります。下記に、この概念図を示します。

個々の研究者の研究コンセプト, priority, 独自性は？



これらの条件を満たす解決策として、基本的には統合を視野に入れた共通項を、個々の研究者が行う研究に埋め込んで頂くことを考えています。すなわち、

●調査研究では、

連携すべき調査項目は厳密性が必要とされますが、今回の Feasibility Study 例のように「必須変数」を指定して埋め込めば研究結果の統合が可能となり、各施設がさらに独自に興味を持っている変数について同時に調査すれば達成されるでしょうし、

●実験研究たとえば睡眠時EMG解析などでは、

解析条件の設定を工夫できるかもしれません。解析するEMGの解析条件について、個々の施設が興味を持っている条件を実施し、それに加えて共通の条件を用いた解析結果を研究報告に追加しておけば方向性が達成できるかもしれません。

●それぞれの研究領域において、グループ内で話をする機会を持つことによって、これらの共通条件の検討は大きく進むことが期待できます。

このような対応を行うことによって、全体として大きなグラントに応募して研究資金を得られる可能性があること、個の興味を損なうことなく統合された強いデータを協力して産出することができる可能性が得られると考えております。

日本補綴歯科学会は、世界を牽引するプラットフォームとして機能するための協力活動を提供したいと考えています。 ご賛同、ご協力、ご参加を心からお待ち申し上げます

研究企画推進委員会 拝